

めざす行動する委員会!!

— 広報委員の語るまちづくり —

原油高による諸物価の値上げに、私たち市民は悲鳴を上げ、生活に対する不安感はいっそう強まっています。

財布のヒモは固く閉ざされ、経済不況はますます長引きそうで、回復の兆しはいっこうに見えませんが、地方末端の仙北市のこの先はいつたような心配です。このまま仙北市に住んで生活できるのか、という声もあります。

議会広報委員がそのまちづくりについて語り合いました。



沢田委員長

(沢田) これから「議会広報委員の語るまちづくり」というタイトルで座談会を始めます。はじめに議会広報を単なる報告やお知らせではなく、「発信型」、「問題提起型」という面も必要でないかと考えています。このことについていかがでしょうか。

発信と提案の紙面作りを

(高久) 「合併したら議会が遠く感じる」という市民の声がある。議会だよりにしつかりした役割を持たせる必要がある。時には旧町村版のなべ

ジを設けたらいいと思う。



田口 (喜) 議員

(田口喜) 広報委員が地域に取材に向いて、問題を提起したり、地域の取り組みを発信する記事を書くことは、これまでの議会だよりにはない取り組みになる。画期的な取り組みであり、ぜひ成功させたいと思う。

(浅利) 地域づくりをターゲットに、地域の活動内容等を紹介するとともに、取材する委員も勉強することになり、委員相互の刺激になると思う。

取材は委員全員の取り組みにすべきと思う。



浦山議員

(浦山) 市民と広報委員の接触を深める意味で、企画した内容についてはさらに追い求め、経過や結果を市民に的確に情報発信すべきと思う。

(真崎) 「動く広報委員会」をモットーに、取材や座談会などを通じて、問題を発掘し解決する責務を担っていったらどうか。

(沢田) 問題提起、地域発信の議会だよりを発行する方向付けができた。今回から取材を通じて取り組むことにする。次に仙北市において最も危惧されること。こんなことを心配している点をお話ください。

気になる人と人のつながりの希薄さ

(黒沢) 農村部においても人と人のつながりが希

薄になっていることを心配している。子供達にもその傾向が強く、地域の絆が保てなくなり、集落が崩れるのではと心配している。



黒沢委員

(浦山) 国や県の話に、「限界集落」が大きく取り上げられている。私の住む田沢地区もその状況に近づいている。集落崩壊が心配であり課題と思っている。

(高久) 最も危惧していることは、何といたっても若い人達の定住である。雇用不足が不足している状態を解消しなければ、若い人達が地域に留めることは不可能に近い。

(青柳) 基幹産業といわれる農業は末期に近い状態である。農機具も肥料も値上げが決まった。地域に住む人達が前向きに取組める農業に変える

事ができるかどうか危惧している。

(田口喜) 心配なことは色々あるが、大きくいつて、仙北市の定住条件となる環境が心配である。住む理由がなければ人は離れ、環境の悪いところは人は集まらない。



真崎副委員長

(真崎) 将来子供達がこの町に住むことができなくなるのでは、と心配している。働く場の確保にしても「優良な企業の誘致」が必要と思う。

(田口勝) 心配していることは、「地域全体に元気がない」ことだ。産業や経済だけでなく、我々議会も含め行政全体にもいえることだ。他の地域では民間の力で立ち向かえるが、ここではやっぱり行政が頼られる。まず職員が元気でなければならぬと思う。

(沢田) 幅広くたくさん
の意見が出た。JAの情
報によれば、肥料の値上
げが示された。これでは
農業の生産体制を維持す
ることは難しい。農家に
とっては大変な事態だ。
このような状況の中、仙
北市が生き抜くために
は、今後何を「売り」に
するかについて、話し合
いたいと思う。「売りが
あればもつと変わってい
る」と言う声もあるが、

**広い仙北市いっぱい
に「桜」を売りに**
(浦山) 仙北市の計画は
一般的に、財政上の関係
か、継続性がない。
仙北市として売りにする

「価値のある仕掛け」が
必要だ。「売り」は一朝
一夕にできない。長い積
み重ねが必要で、「お金」
と「人」をかけないと売
りは見出せない。

(真崎) 努力しているこ
とが話題になる時代だ。
夢中になって「取り組む
姿そのもの」を売りにで
きたらと思う。市民一人
ひとりの対応にかかって
いる。

(青柳) 広い仙北市全体
で「桜を売り」にすべき
と思う。名所はつくるも
のと考え、その仕掛けが
必要だ。その場限りでな
く、二次、三次の見通し
を持った対応が必要であ
る。

(黒沢) 地域の木材を活
かしたログハウスを使っ
て、「長期滞在型」を売
りにすべきと思う。



浅利委員

(浅利) 発信と言うこと
を正しく子どもに伝える
必要がある。農業を基本
とした「地域づくりその
もの」を売りにできると
思う。



高久委員

(高久) 仙北市は「観光」
を前面に進もうとしてい
るが、もつと努力の積み
重ねが必要と思う。この
ままでは観光も限界に近
づくと思う。



田口(勝)委員

(田口勝) 少子高齢化が
進む仙北市においては、
市立病院、診療所、開業



広い仙北市に「桜を」と
望まれた田沢湖高野地区



森林面積7割の仙北市の特徴を
活かしたログハウスは？

医の医療と福祉施設ある
いは地域ヘルパーなど
「医療福祉ネットワーク」
を形成して、「安心して
暮らせる町」を売り出せ
ると思う。

(沢田) 議会には仙北市
の課題に対応する4つの
特別委員会が設置され、
委員の皆さんも所属して
取組んでいるところだ
が、このことに対する意
見等あったらどうぞ。

内陸線廃止は集落崩 壊への道

(浅利) 先ほど限界集落
の話があったが、内陸線
が廃止されたら上桧木内
はまさに限界集落となる

という危機感がある。そ
うならないよう協力をお
願いする。県と沿線自治
体が「まちづくり」をし
なければ、支援策は単発
に終わる。



青柳委員

(青柳) 何にもいえるこ
とだが、計画には見通し
が大事である。内陸線に
しても高校統合でもある

いは行政改革においても
計画立案には、一定の見
通しが必要であり、大事
と思う。「協議」は幅広く、

深いものでなければなら
ないと感じている。

(田口喜) 病院に関する
特別委員だが、経営改善
を図る一方で、地域医療
サービスの充実も求めら
れている。

協議中の再編ネット
ワーク化の改革プラン
は、「市民のための医療
を確保する」「医療の質
を維持する」ことである。
そのために、自治体病
院は構造的な改革を行
い、自分達の市の病院と
して信頼を得ることであ
る。

(沢田) 座談会はこれで
閉じますが、編集方針か
らまちづくりまで、いろ
んなテーマについて語る
ことができ、有意義な時
間を過ごす事ができまし
た。

また委員の皆さんの仙
北市を思う熱い気持ちを
うかがうこともできまし
た。この委員会は、単に
「議会だより」を発行す
るだけでなく、仙北市の
輝きを求めて今後活動を
さらに進めたいと思いま
す。